

2013年4－6月期四半期別GDP速報（1次QE）  
公表に際しての甘利経済財政政策担当大臣談話

2013年8月12日（月）

1. 本日公表した2013年4－6月期GDP速報（1次QE）では、実質成長率は前期比年率2.6%と、1－3月期に続き堅調な成長となった。

その要因としては、①所得が底堅く推移するなかで、マインドの改善等を背景に、個人消費が引き続き増加したこと、②海外景気の底堅さや、円安の影響もあって、輸出が増加したこと、③緊急経済対策の効果が発現し、公共投資が引き続き増加したことなどが挙げられる。

安倍内閣の経済政策の効果が着実に発現していると考えている。

2. 先行きについては、個人消費は緩やかな増加が続くと見込まれるものの、消費に比べ投資が弱めであることに鑑み、設備投資の回復を後押ししていくことが必要である。今後、緊急経済対策の効果の発現が期待されるが、経済動向を注視し、成長戦略の推進等、引き続き「三本の矢」に一体的に取り組み、着実な需要の発現と雇用創出につとめてまいりたい。

3. 政府としては、デフレからの早期脱却を図るとともに、現在、動き始めた支出・生産・所得の好循環をしっかりと強化し、民需主導の持続的な経済成長を実現してまいりたい。

（以上）